

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		児童発達支援・放課後等デイサービスSA-N-PO庚午教室 (児童発達支援)				公表日	令和8年 2月 10日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	9	4	⇒活動内容や人数によって空間を分けたり、机などを移動して広く使えるように工夫している。	⇒雨天時や土日祝などの人数が多い時にしっかりと体を動かせるように活動内容考えいく必要がある。	
	2	利用定員や子どもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	11	2	⇒配置基準以上の職員を配置し、安全にお子さまの支援にあたれるように工夫している。	⇒日によって支援員の人数にばらつきがある。屋外活動時にはより職員が多く配置できるように今後も工夫していく。	
	3	生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	10	3	⇒室内は段差などがなく、安全に配慮した構造になっている。不要なものを置かず、整理整頓を心掛け安全に過ごせるようにしている。	⇒手すりなどは設置されていないため、バリアフリー化されているとは言い難い。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	11	2	⇒清掃・消毒を毎日行い、清潔な空間を保てるようにしている。食事やおやつを食べる場所などは視覚的にわかりやすく区切っている。		
	5	必要に応じて、子どもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	12	1	⇒静養室を利用し、個別活動やテンションコントロールが難しい場面で落ち着くことができるようしている。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	8	4	⇒業務改善を進めるために、ミーティングという形にとらわれず、日々、話し合いを行っている。	⇒目標を設定し、振り返りを行うなどできることはしているが、限られた職員で話し合いを行うことが多く、広く職員が参画しているとは言い難い。話し合った内容は職員みんなに伝え、共有するようにしている。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	11	1	⇒評価表、または日頃の話から保護者の方の意向等を把握するよう努めている。また、一つ一つできることから始めている。	⇒できることから始めているが、業務改善につなげることができていない。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	12	1	⇒ミーティングを行うことはもちろん、日々、話し合いを行うことで職員が意見を言えるようにしている。課題や問題を明確にし、業務改善につながるようにしている。	⇒ミーティングの時間の確保が難しい。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	4	8	⇒第三者による外部評価は現在行っていないが、評価結果を本部の方と共有し、意見をいただいている。	⇒第三者による外部評価については検討中。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	11	1	⇒研修を受講する機会の確保に努め、オンラインも含め外部の研修に参加するようにしている。事業所内でも伝達研修を行っている。	⇒法人内での研修については現在、検討、計画中。	
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	11	1	⇒ホームページ上に支援プログラムを公表している。	⇒支援プログラムの定期的な見直し、修正が今後の課題。	
	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	12	1	⇒丁寧にアセスメントを行い、児童発達支援計画を作成するようしている。	⇒お子さまと保護者の方のニーズをより深く理解するため、面談を実施していく。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	9	3	⇒児童発達支援管理責任者が職員に積極的に働きかけ、子どもの情報を収集し、計画の作成に生かしている。	⇒職員一人一人がお子さまの最善の利益を考えているが、全職員で共通理解をもてているとは言い難い状況。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	9	3	⇒児童発達支援計画は職員間で共有、活動内容を考える際に使用している。	⇒職員一人一人が思いを持っており、それそれが児童発達支援計画に沿って支援を行おうとしている。統一した支援になるよう共通理解・共通認識を持つことが今後の課題。	
	15	子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	10	1		⇒アセスメントシートについて、より深くお子さまのことを理解できるような様式に変更予定。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	9	1	⇒児童発達支援ガイドラインを確認し、児童発達支援計画を作成するようしている。	⇒児童発達支援管理責任者だけでなく、職員全員が児童発達支援ガイドラインを深く理解し、支援内容を設定できるようにしていく。	

× 援 の 提 供	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	11	0	⇒広く職員の意見を取り入れるようにしている。	
	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	13	0	⇒季節を感じられるようなプログラムや「食育」「木育」を意識した活動プログラムなど偏らないように工夫している。	⇒活動プログラムを固定化する必要がある場合もあるが、様々な体験ができるように新しいことも取り入れていく。
	19 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	11	0	⇒お子さま一人ひとりをよく理解し、児童発達支援計画を作成するようにしている。	
	20 支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	10	2	⇒支援内容や役割分担については打ち合わせを行い、確認しあうようにしている。	⇒「チームで連携して支援を行う」ということの意識付けを行っていく。
	21 支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	8	4	⇒必ずとは言いきれないが、気になった点や反省点を伝えあうようにしている。その日の出来事はその日のうちに職員で共有するようにしている。	⇒支援開始前、支援終了後に必ず話し合いを行なうことができるよう設定していく。話し合った内容を全職員と共有するようにしていく。
	22 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	12	1	⇒他の職員が書いた記録も読み、全職員が統一した書き方で記録が取れるようにしている。	⇒記録をとるだけに終わらず、支援の検証を行なう時間を作っていく。
	23 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	11	2	⇒日々、話し合いを行うなかで、子どもの成長などを把握し、児童発達支援管理責任者が適切に見直しを行ってくれている。	
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	24 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	13	0	⇒管理者または児童発達支援管理責任者が出席するようにしている。	⇒管理者、児童発達支援管理責任者だけでなく他の職員も各関係機関との連携に関わるようしていく。
	25 地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	9	2	⇒相談員の方や保育園、幼稚園の先生方とは連携を取り、ともに子どもの成長を支える体制ができている。	⇒地域の保健、医療機関とは連携が取れているとは言えない。どのように連携を取っていくかが課題。
	26 併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校（幼稚部）等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	10	0	⇒担当者会議や日々の送迎時に話をしており、情報共有はできている。また、保護者の方を通じて園での生活や対応方法などを聞き、相互理解に努めている。	⇒「インクルージョン推進の観点」からの支援というところで、どこまで職員がインクルージョンについて考えができているか。
	27 就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	9	1	⇒就学時というよりは就学後に行っている場合が多い。	⇒スムーズに移行できるように就学前に小学校や特別支援学校と情報共有できるように連携を取っていく。
	28 (28~30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29 質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30 (自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31 (31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	6	3	⇒担当者会議などで助言を受ける機会はあるが、スーパーバイズというところまではいつていない。	⇒児童発達支援センター主催の研修を受講することを続けていく。
	32 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	6	6	⇒地域の公園で遊ぶ、地域の行事に参加するなどはしている。	⇒地域の公園で遊ぶ、地域の行事に参加するなどはやっているが、保育所や認定こども園、幼稚園との交流はできていない。
	33 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	13	0	⇒こちらからお伝えするだけではなく、保護者の方のお話に耳を傾けるようにしている。	⇒お子さまの様子については丁寧に伝えている。より深く共通理解を持てるよう面談等の時間を確保していく。
	34 家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5	6	⇒市などからの研修の情報について、チラシを配布するなどの情報提供は行っている。	⇒情報提供の回数も少なく、ご家族の方に対して積極的に働きかけができていない。ご家族の方がどのような研修を望まれているのか、ニーズを把握し自分たちでも情報を収集していく。

保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	10	0	⇒契約時には安心してご利用していただけるように丁寧な説明を行っている。	⇒引き続き、丁寧な説明を心がけ、不安や心配事のないようにしていく。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	11	0	⇒丁寧にアセスメントを行い、こどもの最善の利益を考慮した児童発達支援計画を作成できるようにしている。	⇒アセスメント時だけではなく、日頃から子どもや保護者の方の思いを汲み取ることができるように丁寧なかかわりを心がける。また、面談の機会を持ち、意向を確認する場を作る。
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	12	0	⇒「児童発達支援計画」については必ず、保護者の方の同意を得るようにしている。	⇒同意を得る際に保護者の方が納得できるよう丁寧に説明する場を設けるようにする。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	11	1		⇒保護者の方が相談したい、と思った時にいつでも相談できるように信頼関係を築いていく。定期的に面談の機会を確保することで話ができる場がある、という安心感を持っていただくことができるようになる。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	3	9	⇒親子イベントを開催し、保護者の方同士が交流する場ができた。	⇒親子イベントの場しか保護者の方が交流できる場がない。保護者会やきょうだい同士で交流できる機会を設けるよう茶話会や研修、イベントを計画していく。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	11	0	⇒相談や申し入れに対しては迅速かつ丁寧に対応するようにしている。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	13	0	⇒行事予定については毎月発信、活動についてはインスタでの発信、年に4回以上のお便りの発行などによって、できるだけ広く知つていただけるように努力している。	⇒HPについてなかなか更新ができない状況。インスタやお便り以外にもSA-N-POを知つていただくツールになるように更新の頻度を上げていく。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	12	1	⇒個人情報の取り扱いについては、鍵付きキャビネットに入れる、シュレッダーをかけるなど職員一人ひとりが気を付けている。	⇒個人情報の取り扱いに関しては一人ひとりの意識が高まるように、研修の実施を検討したい。
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	12	0	⇒色々なツールを利用してコミュニケーションがとれるように配慮している。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	3	8	⇒地域の公園で遊ぶ、地域の行事に参加するなどはしている。	⇒地域の行事に参加することははあるが、地域の方を招待するような行事はできていない。地域の公園に出かける、行事に参加するなど地域に出ていき、知つていただくよう努力は行っている。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	9	3	⇒各マニュアルを策定、研修・訓練を実施している。	⇒各マニュアルについて策定しているが、広く周知できていない。HP状に公表するなどみんなにわかりやすく伝えることができるようしていく。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	12	0	⇒BCPを策定し、避難訓練を実施。備蓄品に関しても定期的に点検を行っている。	⇒非常災害に備え、避難訓練を実施しているが、訓練がマンネリ化しないように、様々な場面を想定した訓練を行っていく。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	13	0	⇒アセスメントの時に詳しく丁寧に確認するようにしている。	⇒予防接種の状況なども確認できるように、引き続きアセスメントを丁寧に行っていく。
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	13	0	⇒保護者の方と連携を取り、病院受診の際の話を聞いたり、常に確認を行いながら対応している。	⇒引き続き、常に保護者の方に確認を行なながら対応していく。職員もアレルギーに関する研修を受講するなど情報を更新していく。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	10	2	⇒安全計画を策定し、研修・訓練を実施している。	⇒職員一人一人の安全管理に関する意識が高まるように引き続き、研修を行っていく。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	11	1	⇒安全計画を策定し、契約時に説明をしている。	⇒説明するだけでは伝わらない部分も多いため、広く周知できる方法を考えていく。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	13	0	⇒ヒヤリハットについてはすぐに職員間で共有するようにしている。また、ミーティング時にも話し合いを行っている。	⇒些細なことでも気になることは職員間で共有し、より安心、より安全に支援を提供できるようにしていく。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	13	0	⇒虐待防止に関しては委員会を設置し、研修の機会も年に数回確保している。また、研修で学んだことを生かせるように職員間での話し合いを行っている。	⇒引き続き、研修を実施し、職員の意識を高めていく。「あれ？」と疑問に思ったことをすぐに相談できるように風通しの良い職場にしていく。

53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	9	2	⇒身体拘束の禁止については委員会を設置し、事業所内で研修を行っている。児童発達支援計画には必ず記載するようにしている。	⇒引き続き、研修を実施し、職員の意識を高めていく。
----	--	---	---	---	---------------------------